

## 日本産アリヤドリコバチ類の分類學的再検討

渡 邊 千 尚  
北海道大學農學部昆蟲學教室

A taxonomic revision of the Japanese species of  
*Eucharidae* (Hymenoptera: Chalcidoidea)

By Chihisa Watanabe

珍奇な形態と特殊な習性を持つアリヤドリコバチ類は昆蟲學者の興味を惹き、多くの業績が發表されている。しかし未開拓の領域が多分にあり、分類學方面にあつては屬の検討さえ充分に行われていない現状にある。筆者は北大昆蟲學教室所蔵の標本に基づいて、日本に産する種類について再検討を試みた。

本文に入るに先立ち貴重な標本を提供された北大理學部動物學教室の常木勝次氏並に松山農科大學昆蟲學研究室の宮武睦夫氏に深謝の意を表する次第である。又本文の第 1 圖は宮武睦夫氏、第 2 圖は坂上昭一氏の健筆に成るものである。こゝに兩氏に對し厚く御禮を申上げる。

Family *Eucharidae* アリヤドリコバチ科

本科は特に熱帯地方にその種類が豊富である。我國からは僅少な種類が記載されているに過ぎず結局 3 屬 2 種 1 亞種に整理される。日本に産する屬は次の檢索表によつて識別出来る。

屬 の 檢 索 表

1. 小楯板の後縁は弧狀をなし、その中央部には二叉狀突起を缺く (Fig. 2, A.). 觸角は ♂ ♀ 共に數珠狀で、♂ は 12 節、♀ は 10 節. .... *Eucharis* Latreille
- 小楯板の後縁の中央部が伸長して、二叉狀突起をなす..... 2
2. 二叉狀突起は短小で、小楯板の基部より遙に短い (Fig. 2, B.). 觸角は ♂ ♀ 共に糸狀で、12 節...  
..... *Stibula* Spinola
- 二叉狀突起は長大で、小楯板の基部と殆ど同長 (Fig. 2, C.). 觸角は ♀ は鋸齒狀、♂ は櫛子狀で共に 12 節. .... *Schizaspidia* Westwood

Genus *Eucharis* Latreille

*Eucharis* Latreille, Hist. Nat. Crust. Ins., 3: 210, 1802.

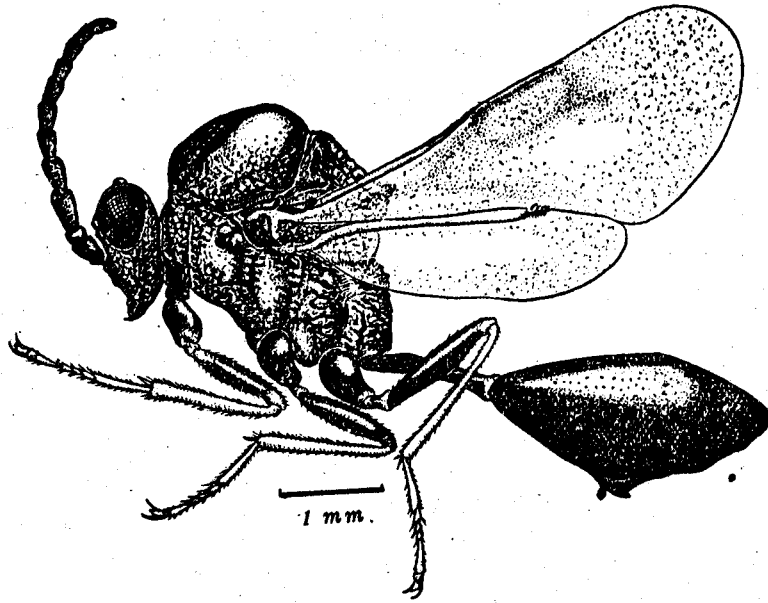
Genotype: *Eucharis adscendens* (Fabricius, 1787).

本邦からは次の 1 種が知られている。

1. *Eucharis esakii* Ishii (Fig. 1; Fig. 2, A.)

*Eucharis esakii* Ishii, Kontyu, 12: 195, ♀ ♂, 1938.

*Eucharis scutellaris* Gahan, Proc. U. S. Mus., 88: 425, ♀ ♂, 1940. syn. nov.

Fig. 1. *Eucharis esakii* Isitii (♂)

*Eucharis esakii* は九州祖母山産の 2 ♂♂, 東京都府中産の 3 ♂♂, 3 ♀♀, 朝鮮水原産の 2 ♂♂ に基づいて記載された。そしてヨーロッパに産する *Eucharis adescendens* (Fabricius) との識別点として觸角の形状, 特に ♀ の節数の相違を擧げている。

*Eucharis scutellaris* は朝鮮水原産の 10 ♀♀, 11 ♂♂ を模式標本として記載された。小橋板の後縁の中央部に二小齒を缺くことにより, ヨーロッパに産する *E. adescendens* と區別している。

*E. esakii* は ♂ を, *E. scutellaris* は ♀ を主体として記載されているが, 兩記載並に筆者が直接調べた標本を比較検討した結果, 兩者は明らかに同一種と認むべきもので, *E. scutellaris* は *E. esakii* の異名とすべき結論に到達したのでこゝに發表する次第である。即ち *E. esakii* の ♀ の觸角は 11 節になつているのに對し, *E. scutellaris* では 10 節になつている。但し *E. esakii* の記載は 11 節とあるが, その挿圖は明らかに 10 節で, 末節(棍棒状部)の中央に切れ込みがあるように描かれている。筆者が調べた 9 ♀♀ の觸角はいづれも 10 節で, *E. scutellaris* の記載と合致している。そして末節の形状は相當個体的に變化が見られ, 中央に切れ込みがあつて, あたかも 2 節をなしているような觀を呈している個体が見られる。この相違は個体的變異と見做すべきものであつて, 偶々 *E. esakii* はこのような標本に基づいて記載されたものと思われる。本種の ♀ の觸角は Gahan の記載の如く, 原則的に 10 節と見るのが至當であり, 兩種は明らかに合一すべきであると信ずる。

本種はヨーロッパ産の *E. adescendens* に極めて酷似し, 唯單にその地理的品種と見做すべき公算が少くない。即ち石井の擧げた兩種を區別すべき標徴は現在その價值を失つた觀があり Gahan の指摘した區別点も検討の余地が多分にあるように思われる。しかし筆者は未だ兩種を詳細に比較する

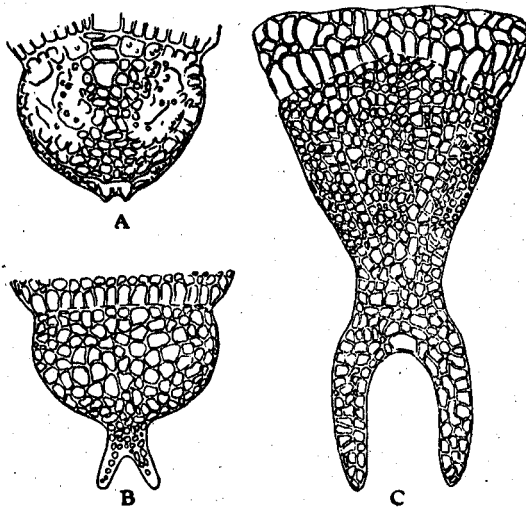


Fig. 2. 小 楯 板

A, *Eucharis esakii* Ishii;B, *Stibula cyniformis tenuicornis* (Ashmead);C, *Schizaspidia* sp. (台湾産の 1 ♀ による).

石槌山, 愛媛縣, 宮武睦夫採集. 1 ♂ (25. VII. 1948) 石槌山, 愛媛縣, 小林尚採集. 1 ♂ (21. VIII. 1950)  
 石槌山, 愛媛縣, 石原保採集. 1 ♀ (10. VII. 1924) 島内村, 長野縣, 河野廣道採集. 1 ♀ (日附不詳)  
 東京 [松村 (1915) が *Schizaspidia tenuicornis* と同定した標本]. 1 ♂ (日附不詳) 高砂, 兵庫縣, 松村松年採集. 3 ♂♂ (1. VIII. 1949), 定山溪, 常本勝次採集.

因に上記標本により本種が北海道並に四國に産することが初めて判明した.

分布 日本 (北海道, 本州, 四國, 九州), 朝鮮.

### Genus *Stibula* Spinola

*Stibula* Spinola, Ann. Mus. Hist. Nat., 17: 150, 1811.

Genotype: *Stibula cyniformis* (Rossi, 1792).

本邦からは次の 1 亜種が知られている.

#### 2. *Stibula cyniformis tenuicornis* (Ashmead) (Fig. 2, B.)

*Schizaspidia tenuicornis* Ashmead, Jour. New York Ent. Soc., 12: 151, ♀, 1904.

*Schizaspidia tenuicornis* Clausen, Ann. Ent. Soc. Amer., 16: 213, ♀♂, Pls. 14-15, 1923.

*Schizaspidia nekkensis* Ishii, Report First Sci. Exped. Manchoukuo, Sect. V, Div. 1, Part xi, Art. 39, pp. 1 & 5, Pl. I, A, 1935. syn. nov.

*Stibula cynipiformis* Ishii, Kontyu, 12: 194, 1933.

*Stibula tenuicornis* Gahan, Proc. U. S. Nat. Mus., 88: 434, 1940.

1) 昆蟲分類學, 下, 283 頁, 第 5 圖版, 第 7 圖, 1915.

機会がないので、こゝに明確な結論を出すことが出来ない。それで本文にては別種として取扱う。

尙筆者は松村 (1915) が *Schizaspidia tenuicornis* Ashmead (ヘウタンコバチ) と同定して記述圖示した標本を調べた結果、それは Clausen (1923) が指摘したように眞の *S. tenuicornis* ではなく、そして明らかに *E. esakii* の 1 ♀ であることが判明した。

寄主 Clausen (1941) は本種が朝鮮にて、*Formica fusca japonica* Motschulsky (クロヤマアリ) の幼蟲に寄生することを報じている。

調査標本 3 ♂♂, 2 ♀♀ (24. VII. 1935) 平壤, 朝鮮, 金憲圭採集. 3 ♂♂, 1 ♀ (24. VII. 1936), 白井谷, 高知縣, 岡本啓採集. 1 ♀ (25. VII. 1936), 瓶ヶ森, 高知縣, 岡本啓採集. 1 ♂ (24. VII. 1947)

*Schizaspidia tenuicornis* の原記載の2頭の標本に基づいて♀のみが記述されている。しかしその模式標本は觸角の破損した1♀と腹部が欠損した1♂であつて、實際は兩性を混同して記載し、その觸角は明らかに♂のものであることは既に Clausen (1923) の指摘したところである。

Clausen (1923) は岩手縣小岩井にて觀察した興味深い習性を明らかにすると共に、各期の形態を記載圖示した。しかし依然として *Schizaspidia* 屬に入れて取扱つている。

*Schizaspidia nekkensis* Ishii, 1935 は滿洲五岔溝産の1♀に基づいて記載された。原記載には“本種ハ本邦産 *Schizaspidia tenuicornis* Ashmead (ありやどりこばち) = 酷似スルモ中脘板ノ側片及び前側板ニ網狀彫刻ガアルコト、全脚ノ附節ノ末節ガ黃色チ、腹部ノ柄ガ濃褐色デアルコトニヨツテ區別サレル”と述べている。ところがこれらの特徴は唯單に Clausen (1923) の *S. tenuicornis* の♀の記載との相違であつて、果して兩種を區別すべき價値があるかは甚だ疑問である。事實 Ashmead の *S. tenuicornis* の原記載には此の如き相違は認められず、又筆者の手許にある北海道産の標本は上記の如き特徴(但し前側板は平滑で、その周圍に網狀彫刻を有し、Clausen の記載と一致する)を備え、むしろ *S. nekkensis* の記載によく合致している。以上のような事實から判断して *S. nekkensis* は *S. cyniformis tenuicornis* の異名として取扱うのが至當と思われる。

石井 (1933) は *Schizaspidia tenuicornis* をヨーロッパに産する *Stibula cyniformis*<sup>2)</sup> (Rossi) の異名として發表したが、兩種合一の理由に関しては少しも論じていない。そして同氏は兩種を合一したに拘らず、その産地にヨーロッパを加えず、又 *S. tenuicornis* の原記載にはその模式標本の産地として“Sapporo”と明記してあるに拘らず、その産地が記してないと述べているのは諷解に苦しむところである。又これらの種類と近縁な *S. nekkensis* との関係については少しも論及されていない。因に石井の擧げた産地は小岩井(岩手縣)、浮岳山(福岡縣)、祖母山(大分縣)、綾原及び水原(朝鮮)である。

Gahan (1940) は *Schizaspidia tenuicornis* の模式標本、小岩井産の6頭並に水原産の6頭の標本を調べ、*Stibula* 屬に移した。又 Ruschka が *S. cyniformis* と同定したヨーロッパ産の標本と比較検討して、日本及び朝鮮の標本は顔面の横皺がより顯著なこと及び中脘板に散在する点刻がより密で、従つて点刻の数がより多ことを指摘した。そしてこれらの相違は種の標徴としてその價値が極めて薄弱で、*S. tenuicornis* は唯單に *S. cyniformis* の1地理的品種 (geographical race) に過ぎない可能性が強いことを示唆した。

石井の見解のように *S. tenuicornis* は獨立の1種と認めるよりも、*S. cyniformis* に合すべき公算が頗る大なることが窺れる。しかしまだこれを裏付けるやうな確固たる根據の表示に缺けている態があり、筆者も亦兩者を詳細に比較検討する機会がなくて分類學上の明確な結論を下すことが出来ない。それで眞の解決は將來の研究に待つこととし、本文にては Gahan が示唆したように日本、朝鮮及び滿州産の如き極東型をヨーロッパ型と區別して亞種として取扱うこととした。

尙石井 (1942)<sup>3)</sup> は滿州ハルビン産の1♀を *S. cyniformis* と同定して發表しているが、その産地から推定すれば恐らく本亞種に入るべきものであろう。

寄主 Clausen (1923) は本亞種の寄主として *Camponotus herculeanus japonica* Mayr (クロオ

2) この種名は Kirby (1886) によつて *cynipiformis* と訂正され、其の後これを踏襲する學者は少くない。石井 (1933) もこれを用いている。しかし Gahan (1940) は *cynipiformis* も亦原綴と同様に適正な綴方ではなく、改訂の理由を認めず、専ら原綴を採用している。筆者は本文にて之に従ふこととする。

3) 昆蟲, 16: 59, 1942.

オアリ)を挙げ、又岡氏(1941)は朝鮮にて *Camponotus herculeanus lignipodus* var. *obscuripes* Mayr (ムネアカオオアリ)に寄生することを報じている、筆者が調べた常木採集の 1♂, 2♀♀ は定山溪にて採集した *Camponotus herculeanus lignipodus* var. *obscuripes* の繭から羽化したものである。

調査標本 2♂♂, 2♀♀ (日附不詳) 札幌, 松村松年採集. 1♂, 2♀♀ (10. VIII. 1949) 定山溪, 常木勝次採集.

分布 日本(北海道, 本州, 九州), 朝鮮, 満洲.

### Genus *Schizaspidia* Westwood (Fig. 2, C.)

*Schizaspidia* Westwood, Proc. Zool. Soc. London, 3: 69, 1835.

Genotype: *Schizaspidia furcifera* Westwood, 1835.

Ashmead (1904) 及び Schmiedeknecht (1909) の兩檢索表に於いて、本属は *Stibula* 属の最も近くに置かれているが、小楯板の二叉状突起の形状から見れば、むしろ兩檢索表にあつては *Dicoelothorax* Ashmead 及び *Laetocantha* Shipp 兩属の近くに位置すべきものように思われる。それで兩氏の見解は後の研究者をして幾多の種類の入るべき真の属の歸属を誤らしめる結果を招來した原因をなしている場合が少なくないようである。但し上記の 3 属の相互關係に就ては筆者の現在の知見を以つて論議しても不備なよわがれ得ないので、本文にてはこの問題には觸れないこととする。本邦からは次の 1 種が記載されている。

### *Schizaspidia yakushimensis* Ishii

*Schizaspidia yakushimensis* Ishii, Kontyu, 12: 197, ♂, 1938.

本種は九州屋久島の安保にて採長した 1♂ を模式標本として記載された。原記載以外には未だ何等の知見を加えられていない。筆者は模式標本並に本種に同定すべき標本を全然見ていない。

分布 日本(屋久島)。

附記 北大昆蟲學教室には台湾産の *Schizaspidia* 属に入るべき 2♂♂ が所藏されている。その 1♂ には "Formosa, Matsumura" 他の 1♂ には "Tainan, Ishida, 2. XII. 1908" のラベルが附けられている。兩標本は恐らく *S. taiwanensis* Ishii, 1933 に同定すべきものと思われるが、觸角は原記載の如く 13 節ではなく、明らかに 12 節である。又台湾からは *S. vicina* Masi, 1926 並に *S. scytellaris* Masi, 1926 の 2 種が記載されている。しかし兩種共觸角、小楯板の二叉状突起の形状などから推定して、*Schizaspidia* 属に入るべきものではなく、他の属に移さるべきものであらう。

### 引 用 文 献

- Ashmead, W. H. 1904: Classification of the Chalcid-flies, or Superfamily Chalcidoidea, with descriptions of new species in the Carnegie Museum, collected in South America by H. H. Smith. Mem. Carnegie Museum, 1: 225-551.
- Ashmead, W. H. 1904: Descriptions of new Hymenoptera from Japan.—II. Jour. New York Ent. Soc., 12: 146-165, 2 pls.

4) 筆者の現在の知見を以ては明示出来ないでその確定は他日に待つこととする。

- Clausen, C. P. 1923: The biology of *Schizaspidia tenuicornis* Asim, a Eucharid parasite of *Camponotus*. Ann. Ent. Soc. Amer., 16: 195-217, 2 pls.
- Clausen, C. P. 1941: The habits of the Eucharidae. Psyche, 43: 57-60. [この論文は長澤純夫 (1947) によつて「蟻寄生小蜂の習性並びに生治史」(生物, 増刊 1: 120-123, 1947) と題して詳細に紹介されている]
- Gahan, A. B. 1940: A contribution to the knowledge of the Eucharidae (Hymenoptera: Chalcidoidea). Proc. U. S. Nat. Mus., 83: 425-453.
- Ishii, T. 1935: Insects of Jehol. Superfamily Chalcidoidea. Report of the First Scientific Expedition to Manchoukuo. Sect. V, Div. 1, Part xi, Art. 59, pp. 1-7.
- Ishii, T. 1938: Eucharidae of Japan, with descriptions of three new species. Kontyu, 12: 194-193.
- Masi, L. 1926: II. Sauter's Formosa-Ausbeute. Chalcididae (Hymenoptera). Konowia, 5: 325-331.
- Schmiedeknecht, O. 1909: Genera Insectorum, 97: Chalcididae.

## SUMMARY

In this paper is given a revision of the Japanese species of the family Eucharidae on the basis of representatives preserved in the Entomological Institute, Hokkaido University, Sapporo. From Japan it has been represented, so far as is known, by the following two species and one subspecies.

1. *Eucharis esakii* Ishii 1938

= *Eucharis scutellaris* Gahan, 1940. (syn. nov.)

After careful examinations of Ishii's and Gahan's original descriptions and representatives at hand I came to the conclusion that *E. scutellaris* should be sunken as a synonym of *E. esakii*: because I can't find any specific difference between the descriptions, with which the examined representatives agree very well.

Distribution: Japan (Hokkaido, Honshu, Shikoku and Kyushu) and Korea.

2. *Stibula cyniformis tenuicornis* (Ashmead, 1904)

= *Schizaspidia nekkensis* Ishii, 1935. (syn. nov.)

*Schizaspidia tenuicornis* Ashmead was treated by Ishii (1938) as a synonym of *Stibula cyniformis* (Koss) from Europe. In fact, this seems quite possible, but I am much inclined to the opinion that the Japanese and Korean form may be separated from the European form and be placed as a subspecies of *S. cyniformis* as Gahan (1940) pointed out, for the time being, until both the forms are more fully taxonomically studied.

Judging from the original description of *Schizaspidia nekkensis* from Manchuuria, the species may be undoubtedly synonymous with *Stibula cyniformis tenuicornis*: because I can find no basis for holding the two distinct.

Distribution: Japan (Hokkaido, Honshu and Kyushu), Korea and Manchuuria.

3. *Schizaspidia yakushimensis* Ishii, 1938

No authentic representative of this species has been seen by me.

Distribution: Japan (Yakushima).

昭和二十五年九月十五日發行  
石原保  
印刷所 四國昆蟲學會  
徳島五一七五番